

(5) 飼料作物

飼料用トウモロコシ

<青刈 標準播>

対象地域 (土壌)	品種名	栽植密度	目標収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分	その他	備考
		本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	
全域 (全土壌)	早生	7,500	5,500	基肥: 播種前 追肥: 6~7葉期 合計	10~15	7~10	5~10	(*牛ふん堆肥 4,000) 基準: 4~5 上限: 4~5	石灰 100~200 ようりん 60~80	播種時期は中通り5月1日前後、浜通りで7~10日早め、会津平野で7~10日遅らせる。高標高地域でも相応に遅らせる。
	中生	6,500	6,500		5	5	5			
	晩生	6,000	7,000		15~20	7~10	5~10			
環境保全型施肥のポイント				<p>ア 石灰は苦土石灰を用いpH6.5を改良目標に施用する。ただし、土壌中にマグネシウムが十分であると判断された場合は炭カル等を施用する。</p> <p>イ pHが6.5以上の場合には苦土石灰投入を中止するか減量する。</p> <p>ウ 火山灰土では、石灰、ようりんを増量する。</p> <p>エ 追肥を行わない場合は全量を元肥で投入する。</p> <p>オ 定期的に土壌分析を行う。</p> <p>カ 堆肥を連年施用する場合には、飼料中のK / (Mg + Ca) 当量比及び硝酸態窒素を測定する。</p> <p>キ ようりんは、土壌改良及び緩効性リン酸肥料として使用する。</p>						
				<p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、4~5t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相応した量を施用)する。</p> <p>イ 堆肥は完熟したものを使用する。</p> <p>ウ 飼料中のK / (Mg + Ca) 当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。</p> <p>エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入を中止するか減量する。</p> <p>オ 牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。</p>						

ソルガム

<青刈 標準播>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分	その他	備考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	
全域 (全土壌)	スーダン型	2~3	5,500	基肥: 播種前 追肥: 6~7葉期 合計	10~15	7~10	5~10	(*牛ふん堆肥 4,000) 基準: 4~5 上限: 4~5	石灰 100~200 ようりん 60~80	播種時期は5月中旬、中通り・会津で7~10日早める。
	カウ型	1.5~2	6,500		5	5	5			
	兼用型	1~1.5	7,000		15~20	7~10	5~10			
環境保全型施肥のポイント				<p>ア 石灰は苦土石灰を用いpH6.5を改良目標に施用する。ただし、土壌中にマグネシウムが十分であると判断された場合は炭カル等を施用する。</p> <p>イ pHが6.5以上の場合には苦土石灰投入を中止するか減量する。</p> <p>ウ 火山灰土では、石灰、ようりんを増量する。</p> <p>エ 追肥を行わない場合は全量を元肥で投入する。</p> <p>オ 定期的に土壌分析を行う。</p> <p>カ 堆肥を連年施用する場合には、飼料中のK / (Mg + Ca) 当量比及び硝酸態窒素を測定する。</p> <p>キ ようりんは、土壌改良及び緩効性リン酸肥料として使用する。</p>						
				<p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、4~5t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相応した量を施用)する。</p> <p>イ 堆肥は完熟したものを使用する。</p> <p>ウ 飼料中のK / (Mg + Ca) 当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。</p> <p>エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。</p> <p>オ 牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。</p>						

ライ麦

<青刈 普通播>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分	その他	備考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a	
全域 (全土壌)	共通	条播	4,000	基肥: 播種前 追肥: 5~6葉期 合計	10	10	10	(*牛ふん堆肥 3,000) 基準: 3~4 上限: 3~4	石灰 80~100 ようりん 80~100	播種時期は、中通りで10月20日前後、浜通りで7~10日遅らせ、会津平野では7~10日早める。高標高地域でも相応に早める。
		散播			2~3	10	10			
		6~8			12~13	10	10			
環境保全型施肥のポイント				<p>ア 石灰は苦土石灰を用いpH6.5を改良目標に施用する。ただし、土壌中にマグネシウムが十分であると判断された場合は炭カル等を施用する。</p> <p>イ pHが6.5以上の場合には苦土石灰投入を中止するか減量する。</p> <p>ウ 火山灰土では、石灰、ようりんを増量する。</p> <p>エ 追肥を行わない場合は全量を元肥で投入する。</p> <p>オ 定期的に土壌分析を行う。</p> <p>カ 堆肥を連年施用する場合には、飼料中のK / (Mg + Ca) 当量比及び硝酸態窒素を測定する。</p>						
				<p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、3~4t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相応した量を施用)する。</p> <p>イ 堆肥は完熟したものを使用する。</p> <p>ウ 飼料中のK / (Mg + Ca) 当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。</p> <p>エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。</p> <p>オ 牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。</p>						

エン表

<青刈 夏播>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分	その他	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a		
中通り 浜通り (全土 壌)	共通	散播 8~10	3,500	基肥: 播種前	10	10	10	*牛ふん堆肥 3,000 基準: 3~4 上限: 3~4	石灰 80~100 ようりん 40~60	播種時期は8月中旬
				合計	10	10	10			
環境保全型施肥のポイント				<p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 石灰は苦土石灰を用いpH6.5を改良目標に施用する。ただし、土壌中にマグネシウムが十分であると判断された場合は炭カル等を施用する。</p> <p>イ pHが6.5以上の場合には苦土石灰投入を中止するか減量する。</p> <p>ウ 火山灰土では、石灰、ようりんを増量する。</p> <p>エ 定期的に土壌分析を行う。</p> <p>オ 堆肥を連年施用する場合には、飼料中のK/(Mg+C a) 当量比及び硝酸態窒素を測定する。</p> <p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、3~4t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相応した量を施用)する。</p> <p>イ 堆肥は完熟したものを使用する。</p> <p>ウ 飼料中のK/(Mg+C a) 当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。</p> <p>エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。</p> <p>オ 牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。</p>						

<青刈 早春播>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分	その他	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a		
全域 (全土 壌)	共通	散播 8~12	3,500	基肥: 播種前	10	10	10	*牛ふん堆肥 3,000 基準: 3~4 上限: 3~4	石灰 80~100 ようりん 40~60	播種時期は中通り3月下旬、浜通りで7~10日早め、会津平野では7~10日遅らせる。高標高地域でも相応に遅らせる。
				合計	10	10	10			
環境保全型施肥のポイント				<p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 石灰は苦土石灰を用いpH6.5を改良目標に施用する。ただし、土壌中にマグネシウムが十分であると判断された場合は炭カル等を施用する。</p> <p>イ pHが6.5以上の場合には苦土石灰投入を中止するか減量する。</p> <p>ウ 火山灰土では、石灰、ようりんを増量する。</p> <p>エ 定期的に土壌分析を行う。</p> <p>オ 堆肥を連年施用する場合には、飼料中のK/(Mg+C a) 当量比及び硝酸態窒素を測定する。</p> <p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、3~4t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相応した量を施用)する。</p> <p>イ 堆肥は完熟したものを使用する。</p> <p>ウ 飼料中のK/(Mg+C a) 当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。</p> <p>エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。</p> <p>オ 牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。</p>						

イタリアンライグラス

<乾草・サイレージ>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分	その他	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a	kg/10a		
全 域 (全土 壌)	共通	散播 2~3	8,000	基肥: 播種時	5~7	10~15	5~7	*牛ふん堆肥 3,000 基準: 3~4 上限: 3~4	石灰 100~200 ようりん 80~100	播種時期は9月中旬、高標高地では10日程度早める。
				追肥: 早春・刈取毎	25~35	20~25	15~20			
環境保全型施肥のポイント				合計	30~42	30~40	20~27	<p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 石灰は苦土石灰を用いpH6.5を改良目標に施用する。ただし、土壌中にマグネシウムが十分であると判断された場合は炭カル等を施用する。</p> <p>イ pHが6.5以上の場合には苦土石灰投入を中止するか減量する。</p> <p>ウ 火山灰土では、石灰、ようりんを増量する。</p> <p>エ 追肥は1回量で窒素6~8kg/10aを目安とする。</p> <p>オ 定期的に土壌分析を行う。</p> <p>カ 堆肥を連年・多量施用する場合には、飼料中のK/(Mg+C a) 当量比及び硝酸態窒素を測定する。</p> <p>&lt;堆肥等施用のポイント&gt;</p> <p>ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、3~4t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相応した量を施用)する。</p> <p>イ 堆肥は完熟したものを使用する。</p> <p>ウ 飼料中のK/(Mg+C a) 当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。</p> <p>エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。</p> <p>オ 基肥として牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。</p> <p>また、追肥に堆肥や尿を施用する場合は成分量を考慮し、化学肥料の施用量を減ずる。</p>		

リードカナリーグラス

<乾草・サイレージ>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全 域 (全土 壌)	共通	散播 2~3	6,000	基肥: 播種時	5~7	10~15	5~7	(*牛ふん堆 肥3,000) 基準: 3~4 上限: 3~4	石灰 100~200 ようりん 80~100	播種時期は9月上旬、高標高地域では7~10日程度早める。
				追肥: 早春・刈取毎	15~20	15~20	10~15			
環境保全型施肥のポイント				合 計	20~27	25~35	15~22	<堆肥等施用のポイント> ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、3~4t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相当した量を施用)する。 イ 堆肥は完熟したものを使用する。 ウ 飼料中のK/(Mg+C a)当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。 エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。 オ 基肥として牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。 また、追肥に堆肥や尿を施用する場合は成分量を考慮し、化学肥料の施用量を減ずる。		

混播牧草

<乾草・サイレージ>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全 域 (全土 壌)	オチャード・グ ラス・イタリ ア・アサ ローバ・シロ コ	1.5~2.0	6,500	基肥: 播種時	7~10	15~20	7~10	(*牛ふん堆 肥2,000) 基準: 2~3 上限: 2~3	石灰 100~200 ようりん 80~100	播種時期は9月上旬、高標高地域では7~10日程度早める。
		0.3~0.5 5.0.5~ 1.0.0.3 ~0.5		追肥: 早春・刈取毎	15~20	10~15	10~15			
環境保全型施肥のポイント				合 計	22~30	25~35	17~25	<堆肥等施用のポイント> ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、2~3t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相当した量を施用)する。 イ 堆肥は完熟したものを使用する。 ウ 飼料中のK/(Mg+C a)当量比が2.2以上になった時点で次作は堆肥投入及びカリ施用を中止するか減量する。 エ 飼料中の硝酸態窒素含量の上昇に応じて堆肥投入及び窒素施用を中止するか減量する。 オ 基肥として牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。 また、追肥に堆肥や尿を施用する場合は成分量を考慮し、化学肥料の施用量を減ずる。		

<生草 放牧>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全 域 (全土 壌)	オチャード・グ ラス・ベ レニア ト・ル グ・ア サ ローバ	1.8~2.0	4,000	基肥: 播種時	7~10	15~20	7~10	(*牛ふん堆 肥2,000) 基準: 2~3 上限: 2~3	石灰 150~300 ようりん 100~150	播種時期は9月上旬、高標高地域では7~10日程度早める。
		0.5~0.7 0.5~1.0 0.4~0.6 0.1~0.2		追肥: 放牧中	15~20	10~15	5			
環境保全型施肥のポイント				合 計	22~30	25~35	12~15	<堆肥等施用のポイント> ア 基肥として*牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、2~3t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相当した量を施用)する。 イ 堆肥は完熟したものを使用する。 ウ 基肥として牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。 また、追肥に堆肥や尿を施用する場合は成分量を考慮し、化学肥料の施用量を減ずる。		

アルファルファ

<サイレージ>

対象地域 (土壌)	品種名	播種量	目標 収量	施肥時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
		kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全 域 (全土 壌)	共通	2	6,000	基肥: 播種時	5	20	20	(*牛ふん堆肥 2,000) 基準: 4~8 上限: 4~8	石灰 200~400 BMようりん20 過石 20	種時期は、9月10日前後、会津及び高標高地域で7~10日程度早める。(リゾコト種子を使用)
				追肥: 早春・刈取毎	5	20	20			
環境保全型施肥のポイント				合 計	10	40	40	<堆肥等施用のポイント> ア 基肥として牛ふん堆肥(オガクズ等混合)を、4~8t/10aを基準(上限)に施用(他の堆肥の場合は、窒素有効成分量に相当した量を施用)する。 イ 堆肥は完熟したものを使用する。 ウ 基肥として牛ふん堆肥を基準(上限)量施用する場合、カリ施用量を全量減することができる。なお、豚及び鶏ふん堆肥を施用する場合、生育観察によりカリ施用量を加減する。 また、追肥に堆肥や尿を施用する場合は成分量を考慮し、化学肥料の施用量を減ずる。		